

## 監修者・推薦の言葉

大規模災害の発生直後、初期消火、人命救助などで、大きな役割を果たすのが、地域住民でつくる自主防災組織です。阪神・淡路大震災を機に、全国各地で結成されていますが、活動状況を調べてみると、組織の多くは名前だけで定期的な訓練をしていないと明かすところも少なくありません。イザという時、被害を最小限に食い止めることができるのは、近隣住民のネットワークです。

この作品は、工夫しながら活動している自主防災組織を取り上げ、実践型の訓練とは何か、組織を磨いていくこととは何かを描いていて、自主防災組織づくりを学ぶには、最適な教材となっています。

首都大学東京 都市環境学部（都市防災）教授 工学博士 中林 一樹

## 作品の概要

## ■最近、重要視されている自主防災組織とは？

過去の様々な地震災害、火災の映像を重ねて—災害を最小限にするためには、自分の身は自分で守る「自助」、消防や警察など公的機関による「公助」、地域住民が助け合う「共助」の仕組みが重要である。この中で最近、重視されているのが「共助」である。「共助」を実現するための、地域住民による組織が「自主防災組織」だ。

## ■過去の災害で自主防災組織が力を発揮した事例

ここでは阪神・淡路大震災や新潟県中越沖地震での初期消火や人命救助に自主防災組織が大きな力を発揮したデータや被災者のインタビューなどを基に、災害時に於ける自主防災組織の重要性を訴える。

## ■都会の自主防災組織の活動

東京都世田谷区若林地区の自主防災組織の活動に密着。街の点検、防災マップづくり、情報収集・発信、問題の解決など活動内容を捉えていく。

## ■災害時要援護者の支援は？

災害時要援護者とは、高齢者、障害のある人など、災害が発生した場合に、一人で身の安全を守ることが難しい人のことである。

災害時要援護者には、どのような支援の方法があるのだろうか？名古屋市の自主防災組織では、地域住民がボランティアで、一人暮らしの高齢者宅を訪ね、家具の転倒防止の作業を行っている。

この目的は災害が起こった時、助け合う関係を作るためだ。

## ■防災訓練 多くの人に参加してもらうために

世田谷区の自主防災組織が催す「街かど防災教室」。住民が暮らしているすぐ側で小規模に行うことをモットーとし、地域住民の防災訓練への参加と、防災意識の向上に成功している。

各地で活発に活動する自主防災組織の活動や、行政主催の総合防火訓練の模様も描いていく。

監 修 首都大学東京(東京都立大学)  
都市環境学部(都市防災)教授  
工学博士 中林一樹

協 力 松美町内会(柏崎市)  
若林町会 防災部(世田谷区)  
東京消防庁 世田谷消防署

企画・製作統括 高木裕己

脚本・演出 川崎けい子

撮影：高橋哲也／選曲：YOKA／イラスト：正者章子

制作・著作 株式会社映学社

¥68,250円 (税込)

VHS・DVD [カラー25分]